

# 県民の友

発行/和歌山県 知事公室 広報公聴課 〒640 和歌山市小松原通1の1 ☎0734(32)4111

昭和60年  
2  
月号

## 頑張れ、 緑の後継者たち

豊かな森林資源に恵まれて  
いる「木の国・和歌山」。

その資源は、良質な木材と  
して、また木炭やシイタケな  
ど林産物として古くからわた  
したちの生活にかかわってい  
るとともに、県土の保全や水  
資源のかん養、緑がもたらす  
心のやすらぎなど計り知れな  
い恩恵を与えてくれます。

このようなかげがえのない  
資源を大切に守り育てていく  
ため、県では「紀州材のブラ  
ンドづくり」や「緑資源の確保」  
「活力ある山村づくり」など、  
山村・林業の活性化、森林の  
もつ公益的機能の充実を図っ  
ているところです。

そして、地域でも、山が好  
き、緑が好き、ふるさとが大  
好きな若者たちが「日本一の  
緑づくり」に懸命に取り組ん  
でいます。

県議会だより  
12月定例会から

# 来年度県予算編成、下津町問題、 県勢浮揚策などを論議

昭和五十九年十二月定例会は、十二月三日から十九日までの十七日間にわたり開かれました。

当局提案の十二月補正予算案をはじめ青少年健全育成条例の一部を改正する条例案など議案十九件と知事専決処分報告二件がそれぞれ可決、承認されたほか、「暴力追放に関する決議案」(別掲)「駅員配置駅確保についての要望決議案」の二件が全会一致で可決され、それぞれ関係機関に対し要請がなされました。なお、昭和五十八年度和歌山県歳入歳出決算の認定にかかる決算審査特別委員会が設置され、閉会中の継続審査とするとともに委員の選任が行われました。

## 来年度県予算編成

●来年度予算編成の基本方針はどうか。

▼国の地方財政計画は抑制基調であり、国庫支出金についても社会福祉関係を中心に一律補助カットの方針が出され、地方財政へのシワ寄せが大きくなると予想されており、また、本県財政の主要な財源である税収入においても大きな伸びを期待できない状況にあるなど極めて厳しい財政事情である。こうした中で、これからの本県発展のため、重要施策を進めなければならないので既存事業の見直しや簡素合理化に努めるとともに、少ない経費で大きな効果を発揮できる知恵を出し、また国の予算編成ともからみ合わせながら十分配慮していきたい。

## 下津町問題

●今回の事件に対する県の見解と

## 今後の対応はどうか

▼地方公共団体の存立を根底から揺るがすまことに遺憾な事件である。住民自治の原則に基づき、まず町自体で対処していかなければならぬ問題であるが、県としても町の混乱が收拾するよう指導に配慮するとともに、今後公共福祉の面で重大な影響を及ぼすような事態となれば、町当局並びに町議会の要請を得て国とも相談し正常化のために努力していきたい。また長期的な面における再建計画については、事件の内容解明や債務額、責任所在の確定などにより町自体の計画ができればこれに基づき国と折衝するとともに、県としてもできる限りの範囲内で協力していきたい。

## 県勢活性化対策等

●地方定住化の促進と雇用創出にどのように取り組むのか。  
▼地域の活性化と地方定住を促進

するためには、産業振興と就労の場の確保が極めて重要である。既存地場産業の技術力の向上、地域資源活用による企業の育成、異業種間交流による新しい産業の創出などのほか、基幹産業の強化に留意し既存企業の団地化、共同化による基盤の強化を図っていきたい。また、本県の豊富な森林、水産資源を活用した農林水産業の振興、恵まれた自然を生かした観光関連産業の育成を図るとともに、特に企業誘致の面では、閑空地に伴う交通条件の整備等と相まって付加価値や生産性の高い産業、電子機器等の先端技術産業を主な誘導目標として、産業構造の多角化、高度化を図りながら地方定住化を促進する就業の場をつくり出していきたい。

## バイオテクノロジーに対する本県の対応はどうか

▼バイオテクノロジーは、近年の生命科学の進歩とともに新たな利用分野を開拓しつつあり、次世代を担う先端技術として注目をあびており、今後飛躍的に発展すると予想されている。森林、海洋など豊かな自然資源に恵まれている本県にとって、このバイオテクノロジーこそ本県の明日をひらくものと考え、全体的、総合的にその動向を調査、研究し、バイオ技術の今後の進展に遅れることのないよう

対応していきたい。  
●第二阪和国道の和歌山延伸の見通しはどうか

▼県、和歌山市、海南市並びに両市商工会議所で結成している第二阪和国道延伸促進期成同盟会の総会で、井関ルートの高速道路との競合や和歌山市の交通体系とのかわり等から判断し、現在の国道二十六号に近いバイパスを要望ルートとして建設省に申し入れることを決議しており、今後は大阪府と一体となって閑空開港時までの供用開始をめざし、ルートの早期決定、早期着工を建設省に強く要望していきたい。

## 同和対策

●本県における啓発活動の今後の在り方はどうか

▼本県では、啓発の主体は県民であるとの認識に立って、昭和三十四年から「県民みんなの同和運動」を推進し、予算の充実、組織の強化、教材の充実、指導者の育成等の条件整備に努めてきたところであり、その結果同和問題に対する認識も広まり、家庭や地域社会における啓発機会も深まる等の成果がみられる一方、学習の機会に接しながら同和問題を自分とのかかわりに対して認識するまでに深まっていない。また、無関心な県民をどのように啓発活動に参加させるかなど啓発の方法、内容について検討充実をしなければならぬと考えている。啓発映画の製作等についても県民の意見をふまえ更に充実していきたい。

福祉対策  
●障害者の雇用対策をどのように進めているのか

▼障害の程度により就業可能な範囲が限定されることもあり、心身障害者職業センター等と連携し、個別求人開拓に努めるほか「雇用促進月間」を定め、その啓発運動を展開している。また、県及び職業安定所では企業を訪問し、企業内での職域の見直し、受け入れ体制への指導、助成金制度の活用による雇用開発、雇用率の低い企業に対する雇入れ計画作成の指導、適正実施勧告など積極的な雇用促進を図っており、今後とも強力に推進していきたい。

## 暴力追放に関する決議

平和で明るく住みよい社会づくりは、県民の願いである。しかしながら、最近我が国において暴力行為の傾向にあり、県内においても暴力犯罪が凶悪化、知能化するなど、県民に大きな不安と脅威を与えている。本県議会は、反社会的な暴力行為を徹底して排除し、明るい郷土の建設に積極的に取り組む決意である。

よって、県民の平穏な生活の確保と安全を守るため、関係機関一体となって、県民とともに総力を挙げてあらゆる暴力を追放することを宣言する。

以上、決議する。  
昭和五十九年十二月十九日  
和歌山県議会



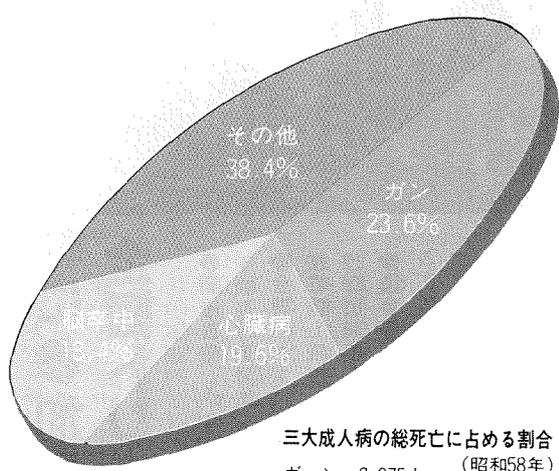
# 成人病予防週間二月一日～七日

# 自分の体大切に

我が国の保健衛生水準は、世界のトップレベルにあり、平均寿命は男の人で74歳、女の人で80歳になっていきます。死亡原因も大きく変わり、戦前に多かった結核、肺炎、気管支炎などの感染症による死亡は急速に減少し、三大成人病と呼ばれる、ガン、心臓病、脳卒中による死亡が上位を占めるようになってきました。

これは本県にもそのままではまっています。昭和58年の総死亡者八、七九二人のうち、ガンは二、〇七五人、心臓病は一、七二五人、脳卒中は一、六一八人と、この三大成人病で六二%を占めています。

今月は成人病予防について考えてみましょう。



ガン	2,075人
心臓病	1,725人
脳卒中	1,618人
その他	3,374人
合計	8,792人

## 成人病を防ぐには

成人病の原因は複雑で多様です。日常の食生活や生活習慣の積み重ねが成人病につながっているとされています。

成人病の予防のためには、まず正しい知識を身につけ、それを実践することが大切です。

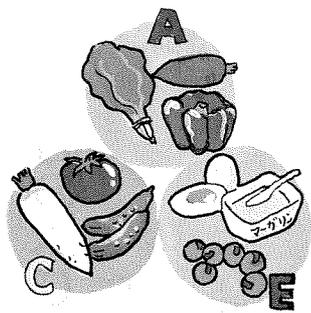
県では「健康大学」や「すこやか教室」を各地で実施しているほか、県下八か所の保健所で個別健康相談を行っていますので、お気軽にご利用ください。

また、いくら注意、努力をしても成人病を完全に予防することは不可能です。検診を毎年受けることにより、成人病の早期発見、治療が可能となります。

県では各種検診を実施していますが、残念なことに県下の老人保健法に基づく受診者は昭和58年で、胃ガン一万八〇九人、子宮ガン一万八〇三六人と、まだまだ十分とはいえません。毎年検診を受け、自分の体をチェックするようにしてください。

## ガン予防の常識 12カ条

- ① 偏食しないでバランスのとれた栄養をとる。
- ② なるべく同じ食品を繰り返し食べない。
- ③ 食べ過ぎを避ける。
- ④ 深酒はしない。
- ⑤ 喫煙は少なくする。
- ⑥ 適量のビタミンA、C、Eと繊維質のものをよくとる。
- ⑦ 塩からいものを多量に食べない。あまり熱いものはとらない。
- ⑧ ひどく焦げた部分を食べない。
- ⑨ かびの生えたものは食べない。
- ⑩ 過度に日光に当たらない。
- ⑪ 過労を避ける。
- ⑫ 体を清潔にする。



成人病の検診は各地で実施しています



「さわやかな汗」が健康のもと

## 循環器疾患（脳卒中、心臓病）を防ぐ 日常生活10カ条

① 規則正しい生活を。



④ 便通を整える。

⑤ 酒、タバコはひかえめに。

⑥ 肥満の防止。

⑦ 適度な運動をしよう。



② 精神の安定を。

③ 保温に気をつけよう。



⑧ 検診を受けよう。

⑨ バランスのとれた食事を。

⑩ 塩分を減らそう。

### 保健所のごあんない

- 岩出保健所 那賀郡岩出町高塚209 ☎(0736)63-0100
- 高野口保健所 伊都郡高野口町名古屋927 ☎(07364)2-3210
- 海南保健所 海南市日方1271 ☎(07348)2-0600
- 湯浅保健所 有田郡湯浅町湯浅1379 ☎(07376)3-2244
- 御坊保健所 御坊市湯川町財部859-2 ☎(0738)22-3481
- 田辺保健所 田辺市朝日ヶ丘23-1 ☎(0739)22-1200
- 古座保健所 東牟婁郡古座町西向193 ☎(07357)2-0525
- 新宮保健所 新宮市新宮6521 ☎(0735)22-8551
- 和歌山市の方は「成人の健康相談」へどうぞ
- 和歌山中央保健所 和歌山市友田町3-16 ☎(0734)33-2261  
毎週水曜日 午後1時～3時
- 和歌山西保健所 和歌山市松江東3-2-63 ☎(0734)55-4181  
毎週土曜日 午前9時～11時

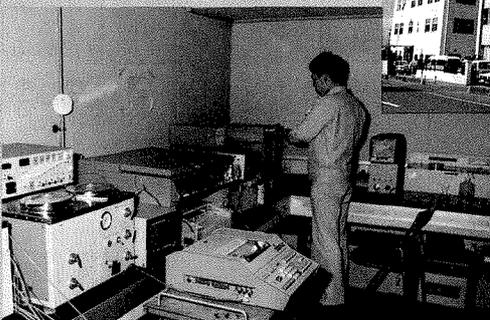
衛生公害研究センターは県民の健康を守る公衆衛生のとりでです。普段はあまり目立ちませんが、食品や医薬品の検査、大気、水質、騒音などの測定監視に忙しい目を光らせています。明治13年に県庁内に設置された衛生試験場が前身で、昭和25年に衛生研究所となり、44年、新庁舎ができました。47年、公害技術センターが設置され、58年に合併して現在の機構になりました。

細菌やウイルスの研究をする微生物部、食品、飲料水、医薬などの関係の生活理化学部、大気汚染、排気ガスなどをチェックする大気環境部、水質検査などを行う水質環境部、し尿や騒音放射能に関する保健情報部などがあります。

最近の公害は家庭から出る廃棄物や自動車騒音などによる生活型公害が多くなってきているとか。また、酸性雨といった新しい公害も現れています。

「科学的な裏付けのある行政を進めるため、地味な仕事です

### 施設紹介シリーズ 5 衛生公害研究センター



が、正確なデータが早く出せるよう取り組んでいます。県民のみなさんからのいろいろな相談にもお答えしていますので、どんどん利用してほしいと思います。と次長の福島さん。

昭和58年には御坊監視支所が業務を開始。監視体制はますます充実しています。

#### 概要

- 所在地 和歌山市砂山南3-3-45
- ☎(0734)23-9570
- 面積 東館一、〇四二・六平方メートル  
西館九〇平方メートル
- 職員 46人
- 御坊監視支所 御坊市蓮字田津25-4
- ☎(0738)23-3977
- 面積 六三二・七七平方メートル
- 職員 3人

# 県民ひろば

## 父と子

かつらぎ町 草田満喜子

子どもがテストを持ち帰りました。天国、地獄、どっちやと思う？一枚は天国で後の一枚は「もうちょっとで天国」とこや」と笑っている。まずまずの出来らしい。母親ってしようのないものです。悪い子より良い子でいて欲しい。できれば活発で、何でもテキパキとこなすほどであつてと欲張る。親がかつてに作り上げた理想と現実の間にあつて子どもは被害者です。母親は防波堤であつて、子どもを守らなければならぬし、不安定な気持ちを子どもにぶつけてはいけない」と、自分を振り返り、「これではダメだな」と反省したばかりなのに、いつまでも一喜一憂する日々です。

母親の狭い考え方に振り回されそうになったときの逃げ場が父親です。父親が「ペロリ」と舌を出して、子どもたちにウインクの一つもすると、「県民ひろば」はみなさんのコーナーです。日々思っていること、訴えたいこと、投稿への共感や反論など、このコーナーで自由に発言してください。投稿は400字以内で住所、氏名、

子どもたちはもう私から解放され、一息も二息もついているのです。

### 「県民の友」に期待します

吉備町 佐々木和子

一月号「私の昭和60年」の記事は大変良かったと思います。登場した方々に陰ながら声援を送った一人です。この企画のように、和歌山県人で、いろいろな方面で活躍なさっている方を（もちろん年齢、職業などは問いません）毎月、紙面に載せていただけたらと思います。

また、五十九年度県文化表彰を受けた方々たちの略歴と、過去に県文化表彰を受けた方々たちの紹介も、折を見て載せていただけたらと思います。それから県展に入賞なさった方々たちにもご登場いただけたらとも思いました。

ご意見ありがとうございました。今年も皆さん方のご要望もお聞きながら、よりよい紙面づくりに努めてまいります。 (広報公聴課)

年齢、職業、電話番号を付記して千和歌山市小松原通一丁目県庁広報公聴課「県民ひろば」係へ。掲載分には記念品を進呈します。

県庁・県教育庁は千和歌山市小松原通一(0734)3214111

# あ・し・ら・せ

## 試験

測量士・測量士補

試験日 5月19日  
試験場 大阪市ほか23都市(詳細は受験票送付時に通知)  
願書受付 2月15日(3月19日) 千和歌山県建設部谷田部町北郷一丁目建設省国土地理院願書交付 2月1日から県庁監理課と各土木事務所へ  
くわしくは願書交付先へ

## 融資

木造住宅建設資金

融資限度額 50万円(250万円)  
年利 6.50%以内  
返済期間 10年以内  
対象 住宅金融公庫の融資を受けて県内に自ら居住するための木造住宅を建設しようとする方で、一定の資格要件を備えた方  
くわしくは住宅金融公庫取扱金融機関か県庁建築課へ

年金住宅福祉協会の住宅資金

対象 厚生年金、船員保険の加入者  
貸付限度額 二七〇万円(一千万円)(年利6%)  
受付 2月1日から  
くわしくは年金住宅福祉協会へ  
(0734)2812400

## 募集

職業訓練生

和歌山総合高等職業訓練校  
和歌山市園部一丁目二七六  
(0734)611531

自動車整備科 20人・1年  
塗装科 10人・1年  
日高総合高等職業訓練校  
日高郡日高町前木三〇  
(0738)6312162  
機械・溶接科 10人・1年  
機械製図科 15人・1年  
願書受付 1月7日(3月22日)(願書は公共職業安定所にあります)

中小企業従事者のみなさんに  
パソコン技術研修  
課程 パソコン利用技術  
内容 初心者を対象にプログラムの基礎から応用まで  
対象 県内中小企業従事者  
期間 3月18日(29日) 会場 田辺商工会議所 田辺市新屋敷町1(0739)2215064  
申込 2月25日までに県庁産地振興課、田辺商工会議所へ  
くわしくは申込先へ

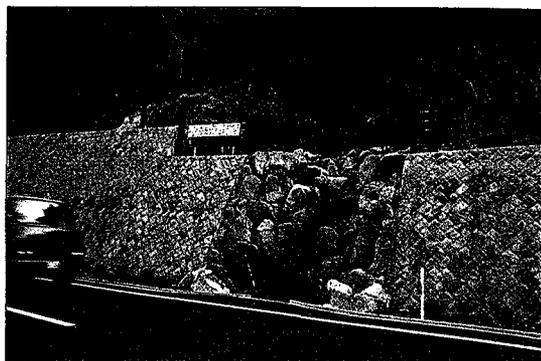
談話会  
「紀北の自然を考える」  
に参加しませんか  
日時 2月17日 午後0時30分  
場所 県立自然博物館  
内容 県水産課専門技術員・杉村允三、和歌山大学教授・牧岩夫、耐久高校教諭・吉田元重、県立自然博物館協議会委員・前田玄津二の各講師が話題を提供し、参加者と話し合います。  
対象 高校生以上  
申込 往復ハガキに住所、氏名、年齢、職業(学年)、電話番号を書いて、2月14日までに千和歌山南船尾370-1(県立自然博物館へ。なお定員(60人)になり次第締め切ります。くわしくは県立自然博物館へ)

県立高校の定時制、通信制課程の生徒  
●定時制課程①普通科設置校 紀の川、粉河、青陵、海南、海南下津分校、大成、箕島、耐久、日高、南紀、南紀周参見分校、新宮  
②職業科設置校 青陵(商業)和歌山第二工業(機械、電気、工業化学、建築)南紀(衛生看護)  
願書受付 2月20日(22日)正午  
学力検査 3月14日  
●通信制課程 紀の川(普通科)陵雲(普通科)  
願書受付 3月1日(30日)正午  
書類により選抜します。  
くわしくは各高校、県教育庁学校教育課へ

県東京学生寮の入寮者  
応募資格 東京近辺の大学に入学予定の男子で本籍が県内にあり、保護者が県内に居住している方  
募集人員 一年生 25人、二年生 若干人  
所在地 調布市佐須町983(京王線下新宿駅から25分、国領駅下車徒歩10分)  
学生居室 洋室(10平方メートル)勉強机、押し入れ、暖房設備あり、一室二人  
経費 入寮金 三万円、寮費(月額)一万六千円、食費(一日二食)一万八千円  
募集期間 3月1日(15日)

野外活動指導者の研修会  
期日 3月8日(10日)(2泊3日)  
会場 県立紀北青年の家(伊都郡かつらぎ町中飯降一三七一三)  
対象 県下の各学校、事業所、団体等の野外活動指導者、その他野外活動に関心のある方  
募集人員 60人  
研修内容 ●自然物を使ってのキャンピングクラブ、リョクランズ●レクリエーション●ダンス●みんなの軽スポーツ●自然と親しむ ほか  
申込 3月2日までに電話かハガキで県立紀北青年の家へ(07362)215530  
くわしくは申込先へ





### 残った 奇絶峽の水飲み場

田辺市秋津川にある観光の名所、奇絶峽の水飲み場は長い間地元の人々に親しまれてきました。このたび、県道田辺十津川線の改良工事のため姿を消すことになっていましたが、地元の強い要望で、県の田辺土木事務所では設計を一部変更。自然石を積んで三か所に水飲み場を復活し、訪れる人の憩いの場となっています。〔田辺市〕

### 煙樹が浜の クリーン大作戦

雄大な砂浜と延々と続く緑の松林の景観を誇る県立自然公園、煙樹が浜は多くの人々の憩いの場となっています。最近、行楽客の増加などにより汚れが目立ってきたので、御坊ライオンズクラブの主唱で約五〇〇人が参加して「煙樹が浜クリーン大作戦」が行われました。参加者はいくくの雨にもめげず、カッパ姿で熱心に空き缶やゴミを拾い、浜辺はみるみるうちに見違えるようにきれいになりました。〔御坊市〕

### 寒風の中 健脚を競う

1月13日、恒例の新春那賀郡民駅伝大会が開催されました。郡内の六町から集まった精鋭12チームは那賀町西脇をスタート。貴志川町公民館までの七区間、約14キロにわたり寒風の中健脚を競い、岩出町Aチームが優勝しました。〔那賀地方〕



### 農業経営者グループが ボランティア活動

伊都地方青年農業経営者協議会(会員68人)では「恵まれた環境での生産に感謝し、生産物を地域で生かす」ことを目的に、昭和44年から毎年年末に自分たちが作った農産物を持ち寄り、伊都地方の各種施設を訪れ、大変喜ばれています。12月14日には代表者8人がミカン60箱と白米一斗(約14キロ)を持って6か所の施設を訪れ、大歓迎を受けました。〔伊都地方〕



### 田舎の味 宅配便

本宮町の青年有志はグループ活動の一環として、地元産物を生かし、都会に住む人々にふるりの味を届ける「本宮町田舎の味友の会」を結成して活躍しています。友の会では年間一万円三万円、五万円のそれぞれ希望するコースの申し込みを受け、川を幸を宅配便で直送しています。幸、川を幸を宅配便で直送しています。青年たちは発送に追われながらも、会員から届くお礼の手紙を励みに頑張っています。〔本宮町〕

### 力封じの石燈籠

田辺市稲成町



ふるりの民話 シリーズ 5

昔、稲成の里に、獺田(おそだ)という力の強い者がいて、阿波の力自慢の相撲取りから力くらべを申し込まれました。そこで獺田は、そばの太い孟宗竹を二本引き抜き、二本の指で押しつぶして俵(ふんどし)をつくり、一本を相手に渡しました。二人は声をほり上げて組み合いましたが、たちまち阿波の力士は、獺田に目よりも高くさし上げられ、砂の中にめり込むほど投げつけられ、命がらから、阿波へ逃げ帰ったとか。話を聞いた阿波の親方は「こんな強い男がいては、四国の力士はいつまでたっても天下にはなれない」と相談。今後、紀州に強力な男が生まれないようにと、熊野権限に祈願。大きな燈籠(とうろう)を、こっそり田辺の鬮神社に奉納しました。以来紀州からは、獺田のような怪力の男は出なくなるとか。神社には今も燈籠が残っており「力封じ」の石燈籠と呼ばれています。

### あ と が き

子育て後の親の人生、昔は八年、今は四十年ともいわれています。高齢化社会を迎えて、その中身の充実が求められておりますが、それも健康あってのこと。四、五面で成人病についての特集をしまし、自分の健康は自分で守ることが大切で、過度な運動と検診を欠かさない。〇県民の友に対するご意見をお寄せください。